

【はじめに】事例に関する倫理的配慮として

事例は、当法人の運営する事業所内で、実際に観察し、ケアミーティング等によって情報を整理したものです。事例の提示に際し、本人やご家族には、ケアの質的向上のための研修に活用させていただくことを説明し、許可を得ています。ただし、名前や事例の内容は一部変えております。

事例1) もの盗られ妄想のある利用者のグループホームケア

①ヨネさんの不安が生じてから応えるケア

ヨネさんは、グループホームに入居して5年が経ちます。アルツハイマー型認知症で入居の時から、時々夜間の妄想がありましたが、ゆっくりとお茶を飲みながら状況を説明するとすぐに納得していたので、さほど問題にはなりませんでした。

しかし、最近になって若い男性職員の敦君が入職すると日中は普通に対応していても夜間になると「あの人が私の部屋に忍び込んでくる」「私のものをとろうとしている」など他の職員に話し、部屋の中から衣類の入った段ボールなどでバリケードを作り、日中でも敦君に冷たく当たるようになっていきました。特に敦君にはターゲットにされるような意地悪なことをした覚えはなく、どうしたらいいのか分かりません。やむなく他の職員は、夜間そのような訴えがあるとき、優しく声をかけて、リビングで温かいお茶やお菓子を出して、ゆっくり向き合っただボディタッチしながら話を聞くのでした。

ところが、特に今回は3週間程、夜間の訴えが続きました。また、その訴えがほぼ毎日ようになってきて、私たちは、自分たちのケアのあり方を考え直す必要があるのではないかと感じるようになりました。

②ヨネさんの記録から

私たちは、ABC分析を行うために記録の仕方を変えてみました。焦点行動は、「物を盗られた」とか「あの人が私の部屋に入ってきた」など訴えてくることにしました。訴えてきた時間や、直前はどこで何をしていたのか。また、訴えてきた後は、どのような対応をしたのか、整理して記録しました。中には、記録の仕方が分からないスタッフいましたが、後でリーダーがそのときの状況を聞き取りして確認しました。

【整理した記録より】

焦点行動：「物を盗られた」「あの人が私の部屋に忍び込んできた」と訴えてくる

時間	実際の言動	直前の環境	その後の対応や環境の変化
3日 23:00	「寝ていたら物音がした。あの人が外から忍び込んできた。」	自室で寝ていた。	部屋を見に行き、「大丈夫」と話し、ゆっくりココアを飲んでもらい、少し話をした。
5日 22:00	「私の服がない。あの人が盗ったと思う。」	自室にて独りでござごと片付けていた。	「どんな服？」と聞きながら、お茶を出し、ゆっくりと話を聞いた。

記録やスタッフからの情報を整理してみると次のようなことが分かってきました。

- ・ 訴えがあるときは、ほとんどが一人で自室に帰って、うたた寝しているか、自室で片付けものをしていた。
- ・ 訴えがあった後は、スタッフの対応のほとんどがリビングに誘ってお茶やココアなどを勧め、ゆっくりと話を聞いていた。
- ・ 夜間自室に帰る前は、台所の片付けを手伝い、静かに「寝るわ」と自室にむかっていた。
- ・ 敦君以外のスタッフも入職の時に何回か同じように自室にバリケードを作られたことがあった。
- ・ 敦君は、ゆっくり夜間ヨネさんと話したことがなく、最近苦手な存在と感じていた。

その後、ABC分析をもとにスタッフと話し合いました。特に敦君には、ヨネさんが台所の片付けものの後に感謝を伝えて、訴えが起きていた後におこなっていたお茶やココアなど飲みながらゆっくり話をする機会を多く持ってもらいました。他のスタッフは、他の人のケアをさりげなく行いながら二人で話す時間をもてるようにしました。話す内容は、本人の昔の話や敦君自身の家族の話やグループホームに勤めるようになった経緯などでした。ヨネさんは、すぐに自室に帰らず、眠くなるころまでゆっくりとリビングで過ごしました。

その結果、一週間もすると敦君がもの盗られ妄想のターゲットになることはなくなり、ものを盗られたという訴えも少なくなりました。